



保幼小接続期カリキュラムの実践に向けて

- 1 保幼小接続期カリキュラムとは 1P
- 2 宮城県内の取組 3P
- 3 幼児期から学童期への学びのイメージ 4P



- 4 アプローチカリキュラム実践の流れ 5P
- 5 スタートカリキュラム実践の流れ 6P
- 6 振り返り 7P

幼児期に主体的な遊びを通して身に付けた力が、学童期においてどのようにつながり、子どもの成長に作用していくのかを理解した上で、保育所、幼稚園、認定こども園等と小学校のいずれにおいても保幼小接続期カリキュラムを作成することが求められています

そこで、保育所、幼稚園、認定こども園等と小学校において、子どもの発達と学びの連続性及び一貫性を考慮し、保育と教育の円滑な接続を図るため、「宮城県版 保幼小接続期カリキュラムの実践に向けて」を作成しました。

それぞれの実情に合わせて接続期カリキュラムを作成、または実践する際の参考として、本書をご活用ください。

平成31年3月
宮城県教育委員会





保幼小接続期カリキュラムの 実践に向けて

1 保幼小接続期カリキュラムとは 1P

2 宮城県内の取組 3P

3 幼児期から学童期への学びのイメージ 4P



4 アプローチカリキュラム実践の流れ 5P

5 スタートカリキュラム実践の流れ 6P

6 振り返り 7P

5 スタート カリキュラム 実践の流れ

幼児期に主体的な学びを通して身に付けた力が、学童期においてどのようにつながり、子どもの成長に作用していくのかを整理した上で、保育所、幼稚園、認定こども園等と小学校のいずれにおいても保幼小接続期カリキュラムを作成することが求められています

そこで、保育所、幼稚園、認定こども園等と小学校において、子どもの発達と学びの連続性及び一貫性を考慮し、保育と教育の円滑な接続を図るため、「宮城県版 保幼小接続期カリキュラムの実践に向けて」を作成しました。

それぞれの実情に合わせて接続期カリキュラムを作成、または実施する際の参考として、本書をご活用ください。

平成31年3月
宮城県教育委員会



スタートカリキュラム実践の流れ

リキュラム実践の流れ

このPDCAのサイクルは、各主体の実情に合わせて期間を設定しましょう。

このPDCAサイクルは、各主体の実情に合わせて期間を設定しましょう。

Plan 校内組織を立ち上げて準備しよう

生活科を中心に他教科との関わりを意識した指導計画を立てる。その際、新年度からの取組を考慮し、1学期の始まりまでには、年間の大きな計画を持つ。

(ポイント)

入学してくる子どもを知ろう
園(所)を訪問して主体的な遊びや環境構成など、4月からの授業につながるポイントを確認しよう。

入学を迎えた保護者に伝えよう
入学説明会において園(所)での生活が小学校生活の学びの基盤となっていることを伝え、保護者の安心につなげよう。

Action

活動ごとに振り廻り
次に生かそう

次年度のスタートカリキュラムの編成に向けて保育所、幼稚園、認定こども園等との意見交換会等を実施する。

(ポイント)

データベース化を促そう

活冊を加えた指導計画や活冊等の資料を蓄積し、必要に応じて修正を加えながらデータベース化することにより学校全体で情報を共有化します。



Do

全校で園力体制を組んで
実践しよう

子どもの主体的な活動となるように自ら振り返る機会を設け、次の展開のきっかけづくりをする。

(ポイント)

機会を均つけて保護者に伝えよう

懇談会やお祭り等で子どもが楽しく学習に取り組む様子をエピソードで伝えよう。主体的に学び姿を理解してもらうことは保護者の理解の窓口につながります。

Check 子どもの姿をもとに、活動のねらいや手立てを振り返ろう

学年会や園委員会等で取組状況や成果と課題について共有する。また、参観後の意見交換会を実施して、子どもの成長について意見交換を行う。

(ポイント)

保護の視点を参照してもらおう

園(所)の先生方に活動を参照してもらう機会を設け、子どもの姿を語り合い、成長を実感しよう。



P lan

校内組織を立ち上げて準備しよう

生活科を中心に他教科との関わりを意識した指導計画を立てる。その際、新年度からの取組を考慮し、1学期の始まりまでには、年間の大まかな計画を持つ。



ポイント

入学してくる子どもを知ろう

園(所)を訪問して主体的な遊びや環境構成など、4月からの授業につながるポイントを把握しましょう。

入学を控えた幼児の保護者に伝えよう

入学説明会において園(所)での生活が小学校生活の学びの基盤となっていることを伝え、保護者の安心につなげましょう。



P lan

校内組織を立ち上げて準備をしよう

カリキュラム作成の視点

視点1 生活をつなぐ

視点2 人をつなぐ

視点3 学びをつなぐ

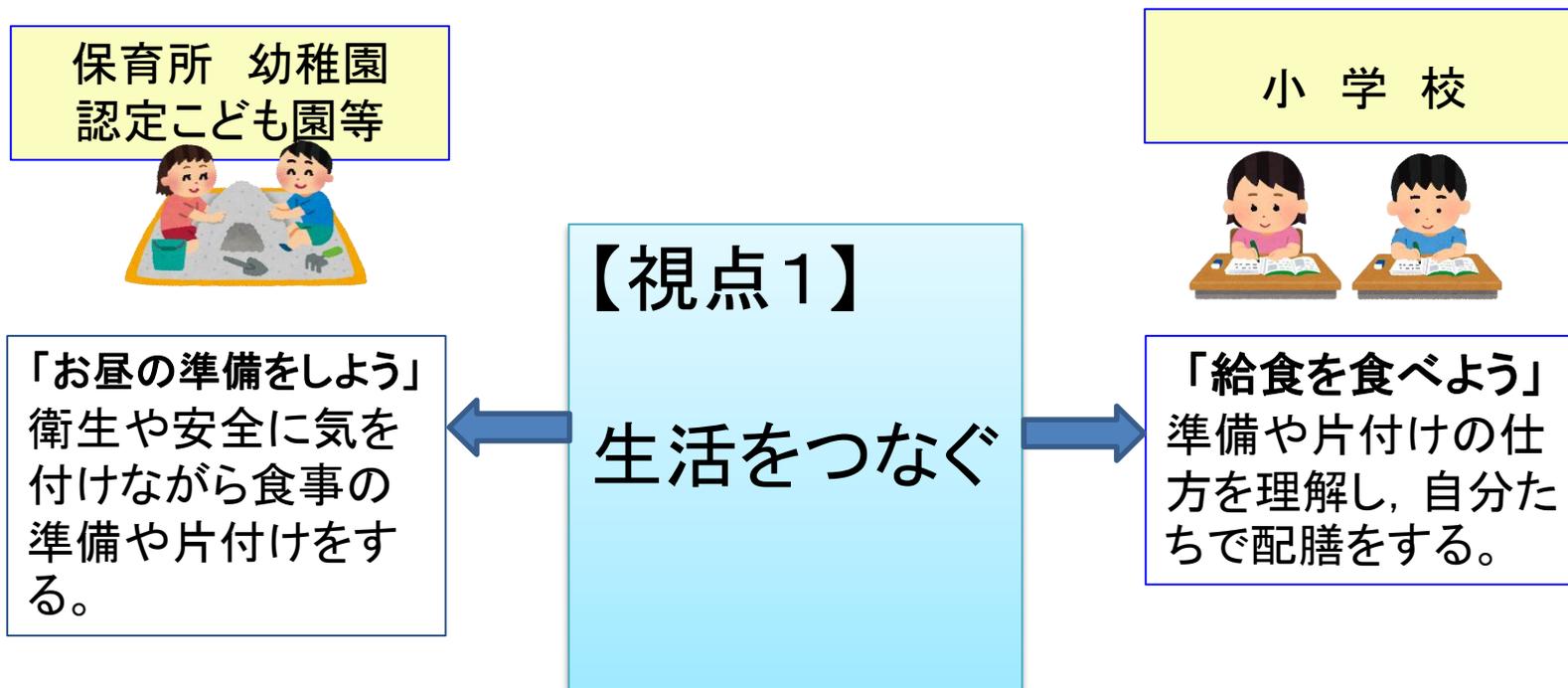


P lan

校内組織を立ち上げて準備をしよう

カリキュラム作成の視点と具体例

入学してきた子どもたちが、幼児期にどのような経験をしてきたのかイメージしてみましょう。



P lan

校内組織を立ち上げて準備をしよう

カリキュラム作成の視点と具体例

入学してきた子どもたちが、幼児期にどのような経験をしてきたのかイメージしてみましょう。

保育所 幼稚園
認定こども園等



「家族に聞いてみよう」
知りたいことを家族
に聞き、それをみんな
に伝える。

【視点2】

人をつなぐ

小学校



「友達に説明しよう」
自分の考えや気付
いたことを友達に伝
える工夫をする。



P lan

校内組織を立ち上げて準備をしよう

カリキュラム作成の視点と具体例

入学してきた子どもたちが、幼児期にどのような経験をしてきたのかイメージしてみましょう。

保育所 幼稚園
認定こども園等



「虫探しをしよう」
見つけたい虫が、ど
んな場所にいるの
か予想をしながら、
園庭で虫探しをす
る。

【視点3】

学びをつなぐ

小 学 校



「季節を感じよう」
校庭や近くの公園
に行き、動植物の
観察を通して、季節
の移り変わりに気
付く。





全校で協力体制を組んで実践しよう

子どもの主体的な活動となるように自ら振り返る場面を設け、次の展開のきっかけづくりをする。



ポイント

機会を見つけて保護者に伝えよう

懇談会やお便り等で子どもが楽しく学習に取り組む様子をエピソードで伝えましょう。主体的に学ぶ姿を理解してもらうことは保護者の意識の変容につながります。



Check

子どもの姿をもとに、活動のねらいや手立てを語り合おう

学年会や職員会議等で取組状況や成果と課題について共有する。

また、参観後の意見交換会を実施して、子どもの成長について意見交換を行う。



ポイント

授業の様子を参観してもらおう

園(所)の保育者の方に活動を参観してもらう機会を設け、子どもの変容を語り合い、成長を実感しましょう。



Action

活動ごとに振り返り次に生かそう

次年度のスタートカリキュラムの編成に向けて保育所，幼稚園，認定こども園等との意見交換会等を実施する。



ポイント

データベース化を図ろう

改善を加えた指導計画や週案等の資料を蓄積し，必要に応じて修正を加えながらデータベース化することにより学校全体で情報を共有化します。



アプローチカリキュラム実践の流れ

← 互いのカリキ

「Plan」と「Do」の段階だけで終わってしまっているのではなく、「Check」と「Action」の段階を経て、常に改善し続けることが重要です！



互いのカリキュラムを共有

アプローチ
カリキュラム



スタート
カリキュラム





保幼小接続期カリキュラムの 実践に向けて

- 1 保幼小接続期カリキュラムとは 1P
- 2 宮城県内の取組 3P
- 3 幼児期から学童期への学びのイメージ 4P



- 4 アプローチカリキュラム実践の流れ 5P
- 5 スタートカリキュラム実践の流れ 6P
- 6 振り返り 7P

幼児期に主体的な遊びを通して身に付けた力が、学童期においてどのようにつながり、子どもの成長に作用していくのかを整理した上で、保育所、幼稚園、認定こども園等と小学校のいずれにおいても保幼小接続期カリキュラムを作成することが求められています

そこで、保育所、幼稚園、認定こども園等と小学校において、子どもの発達と学びの連続性及び一貫性を考慮し、保育と教育の円滑な接続を図るため、「宮城県版 保幼小接続期カリキュラムの実践に向けて」を作成しました。

それぞれの実情に合わせて接続期カリキュラムを作成、または実践する際の参考として、本書をご活用ください。

平成31年3月
宮城県教育委員会

「宮城県版 保幼小接続期カリキュラムの実践に向けて〈リーフレット〉」
「宮城県版 保幼小接続期カリキュラムの実践に向けて〈資料編〉」
は、宮城県HPからダウンロードできます。

次回は、「振り返り」について御説明いたします。

